

研究課題名：がん医療ネットワークナビゲーターによるがん医療情報提供強化プロジェクト：  
情報が確実に手元に届く地域連携モデルの構築

課題番号：H26-がん政策-一般-007

研究代表者：群馬大学大学院医学系研究科病態腫瘍薬理学 教授 西山正彦

## 1. 本年度の研究成果

本研究は、(1) 初年度(平成26年度)に、「がん医療ネットワークナビゲーター」を養成するための教育プログラムを確立し、(2) 次年度にこれらの教育プログラムを実稼働させ、初回の資格認定を目指すとともに、プログラムの実効性を評価、内容を改善、(3) 最終年度には、資格取得者を、熊本、福岡、群馬の3地域に実際に配置してモデル事業を展開、その効果と発展性、課題を検証し、研究を総括する計画となっている。

初年度(平成26年度)となる本年度は、計画通り、基盤知識習得のための、1) e-ラーニングのコンテンツを確定して収録と監修を終了、2) 教育研修セミナーを、群馬、福岡、熊本でセミナーを開催し、3) コミュニケーションスキル研修の要綱とともに、4) 地域のがん診療・医療サービス情報、医療サポート情報、生活支援サービス情報などを収集・提供する実地研修要綱とマニュアルを作成中である(年度末完成予定)。また、研修施設、指導者の認定作業も年度末までに終了する。すなわち、がん診療連携機能の強化を大目的とし、医療情報提供体制の強化をはかるために地域がん医療の水先案内人ともいえる地域がん医療ネットワークに精通した「がん医療ネットワークナビゲーター」の養成基盤を確立した。

### 1) 教育プログラムの立案・確定

#### ① がん医療ネットワークナビゲーター制度規則の制定

【がん医療ネットワークナビゲーターの業務】(制度規則より一部抜粋)

- (1) 地域におけるがん診療情報や医療サービス情報を収集する。
- (2) がん患者・家族等の求めに応じ、がん診療情報や医療サービス情報を適切に提供する。
- (3) 地域連携クリティカルパスの運用支援を行う。
- (4) 臨床試験・治験に関する情報を適切に提供する。
- (5) 医療介入またはこれに相当する可能性のある行為は行わない。

#### ② 申請資格の確定

【申請条件】

- (1) e-ラーニングシステムにおいて所定の科目を聴講し、すべての小テストを受験して合格し、修了証を取得している。
- (2) 定められたセミナー等のうち、いずれか一つに参加し受講修了証を取得している。
- (3) 定められた認定研修施設において、本法人の定める地域医療ネットワークの実地研修を修了し、指導責任者による証明がなされている。
- (4) 申請時にかん医療に関わる地域医療ネットワークに参加している施設もしくは組織に所属している。

#### ③ e-ラーニング・コンテンツの確定と収録

必須30コンテンツを定め、講義を収録して、小テストを付加、平成27年4月1日からの公開を可能とした(CANCER e-LEARNIGシステム <http://www.cael.jp/>)。

(講義例)

- (1) 医療と法律 (医療機関の役割と種類、医師・メディカルスタッフの責務)
- (2) 患者保護 (安全管理、患者の権利)
- (3) 医療の質と選択肢 (医療の質、セカンドオピニオン、医療機関の質の評価法)
- (4) 保健医療 (保険の仕組み)
- (5) 公費負担 (助成制度)
- (6) 介護保険 (介護制度)
- (7) 地域医療連携 (地域医療の仕組み)
- (8) 在宅 (在宅補助と制度)
- (9) 末期癌と疼痛 (疼痛のメカニズムと管理)
- (10) がん患者の精神的変遷 (場面・時期に応じた精神状態の把握)
- (11) 社会的背景① (会社との関係・権利、具体例から学ぶ)
- (12) 再発形式と対応① (癌腫による再発形式について、固形癌)
- (13) ターミナルケアについて① (ホスピスの役割)

.....

#### ④ 教育研修セミナーの要綱の確定と実施

eラーニングを補完する直面式教育機会の提供の場として教育研究セミナーを設定して要綱を確定、セミナーを群馬 (日本対がん協会がん対策推進総合研究推進事業)、福岡 (日本癌治療学会事業)、熊本 (日本対がん協会がん対策推進総合研究推進事業) で実施した。

実施した教育研修セミナー

- A) 群馬 平成26年9月13日 (土) (参加者総数143名)
- B) 福岡 平成26年9月13日 (土) (参加者総数271名)
- C) 熊本 平成26年12月7日 (日) (参加者総数334名)

#### ⑤ コミュニケーションスキル習得研修要綱の作成

がん診療ネットワークナビゲーターに必要なコミュニケーションスキルを講義・ロールプレイ・グループ討議を通じて学び、実地研修や資格取得後の現場で活用できるようコミュニケーションスキルセミナーを開催することとし、要綱を定めた

#### ⑥ 実地研修要綱の作成

研修認定施設での研修要綱を定めた。

##### 実施研修要綱 (V1.1.4) (一部抜粋・要約)

【実施研修概要：求められるもの】

- (1) 地域のネットワークの情報を収集し理解する
  - (2) 相談者への情緒的なサポートを行いコミュニケーションを構築する
  - (3) 相談者の情報の整理を助け、地域のネットワークを紹介し、つなぐ
  - (4) 臨床試験・治験に関する情報を適切に提供する
  - (5) 面談・電話・電子メールなどの各相談スタイルの特性と限界を認識する
  - (6) 継続的なアクセスを保障する
  - (7) 倫理的な側面 (ナビゲーターの立場を明らかにする事。個人情報取り扱い。守秘義務。) に配慮し、医療介入を行わない
  - (8) 認定指導施設やがん相談支援センターと相談・調整しナビゲーター活動を行う場の設定を行い関係を改善・強化する
  - (9) がん連地域連携パスの運用支援を行う
  - (10) ネットワークの他の人々と良好なコミュニケーションを構築する
- 経験した相談症例はすべて報告書に記載し指導責任者の評価を得る。実施研修の審査は、担当したがん患者のうち10例の一覧表に基づいて認定施設の施設長および指

導責任者が研修の終了証明を行う。

◇ 実施場所：認定指導施設、及びその施設のがん相談支援センターを主とした場所。

◇ 指導者：指導責任者、及び指導責任者の認める協力者。

◇ 研修期間：通算5日間。（半日の研修は0.5日と見なす。）

## 2. 前年度までの研究成果

本年度（平成26年度）開始の研究事業であり、前年度までの研究成果はない。

## 3. 研究成果の意義及び今後の発展性

多くの患者にとって、がんとの闘いはすべてが未知の体験である。“知る”ことは医療と生活の選択基盤であるが、情報提供体制は十分ではない。退院後も、また、あらゆる相の病態であっても、「求めることはいつでも知ることができる」、確実に国民の手元に届くがん医療情報の提供システムの確立は、「がんになっても安心して暮らせる社会」を実現するために必須の要素である。本研究は、1) 地域がん医療の水先案内人ともいえる「がん医療ネットワークナビゲーター」を配置し、がん医療情報提供体制の強化をはかる試みであり、2) 人材養成の質と事業の継続性を担保するため、日本癌治療学会、日本医師会、日本看護協会、日本病院薬剤師会等が協働し、3) がん相談支援センター/地域医療連携室在室者、ピアサポーターも含め、職種を問わない人材養成を展開するもので、がんの医療とケアの面から、医療、介護、住まい、予防、生活支援サービスが身近な地域で包括される「地域包括ケアシステム」の確立に大きく寄与するとともに、がん患者の診療と社会生活に関わる様々な情報を確実にすべての患者に伝える仕組みの確立によって「がん対策推進基本計画」の推進、設定目標実現の促進に貢献すると考えられる。実際、今年度実施された教育研修セミナーには3都市のみで総計748名の参加があり、現在も問い合わせが続いている。学会の認定資格制度として質の担保を前提に継続的に展開する試みでもあり、職種を問わないことから、新たな雇用機会の創生、ワーキングシェアの導入機会の増加にもつながる可能性が高い。本研究は、患者の複雑な病態や多様なニーズにも対応できるよう、地域の経験や創意を取り入れようとするもので、明らかとなった課題は新たな政策提言に寄与し、「全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上」、「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」に向けて大きな推進力を持つものと期待される。

## 4. 倫理面への配慮

本研究は、人材養成と医療情報の提供体制の確立を目的とした研究で介入試験を伴わない。ただし、モデル事業における評価は疫学研究の対象になるとも考えられ、「疫学研究に関する倫理指針」を遵守してこれを行う。また、現在、疫学研究と臨床研究に関する倫理指針の見直しが進められていることから、「臨床研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成27年4月1日施行予定）」にも配慮して研究を進める。

モデル事業の評価を行う際には、研究対象者に対する個人情報の管理、人権擁護上の配慮、不利益・危険性の排除や説明と同意（インフォームド・コンセント）への対応を含めた研究計画について、全施設の関連倫理審査委員会に申請して審査を受ける。臨床試験でないためにモニタリング・監査に関する特別な体制は構築しないが、研究代表者、分担者は、研究の適正性及び信頼性を確保するために必要な情報を収集して、研究参加機関の長にこれを報告し、依頼を受けた倫理審査委員会の審査を受け、研究参加機関の長の指示・決定に従って研究を行う。

## 5. 発表論文

1. Furuhata T, Hirata K, Wakao F, Okita K, Imamura M, Maehara Y, Nishiyama M: Questionnaire survey for the development and publication of cancer clinical practice guidelines in Japan. Int J Clin Oncol. 2014.
2. Otsuki A, Watanabe Y, Nomura H, Futagami M, Yokoyama Y, Shibata K, Kamoi S, Arakawa A, Nishiyama H, Katsuta T, Kudaka W, Shimada M, Sato N, Kotera K, Katabuchi H, Yaegashi N: Paclitaxel and Carboplatin in Patients With Completely or Optimally Resected Carcinosarcoma of the Uterus: A Phase II Trial by the Japanese Uterine Sarcoma Group and the Tohoku Gynecologic Cancer Unit. Int J Gynecol Cancer. 2014 Oct 24. [Epub ahead of print]
3. Suto T, Yokobori T, Yajima R, Morita H, Fujii T, Yamaguchi S, Altan B, Tsutsumi S, Asao T, Kuwano H: microRNA-7 expression in colorectal cancer is associated with poor prognosis and regulates cetuximab sensitivity via EGFR regulation. Carcinogenesis. 2014 Dec 10. pii: bgu242. [Epub ahead of print]
4. Ozawa D, Yokobori T, Sohda M, Sakai M, Hara K, Honjo H, Kato H, Miyazaki T, Kuwano H: TGFBI Expression in Cancer Stromal Cells is Associated with Poor Prognosis and Hematogenous Recurrence in Esophageal Squamous Cell Carcinoma. Ann Surg Oncol. 2014 Dec 2. [Epub ahead of print]
5. Yamashita YI, Imai D, Bekki Y, Kimura K, Matsumoto Y, Nakagawara H, Ikegami T, Yoshizumi T, Shirabe K, Aishima S, Maehara Y: Surgical Outcomes of Hepatic Resection for Hepatitis B Virus Surface Antigen-Negative and Hepatitis C Virus Antibody-Negative Hepatocellular Carcinoma. Ann Surg Oncol. 2014 Dec 4. [Epub ahead of print]

## 6. 研究組織

①研究者名	②分担する究項目	③所属研究機関及び現在の専門（研究実施場所）	④所属研究機関における職名
西山 正彦	養成プログラム及びモデル事業の計画立案、及び研究総括	群馬大学大学院医学系研究科/病態腫瘍薬理学	教授
片渕 秀隆	がん医療ネットワークナビゲーターの養成プログラムの確立と実践、及び熊本モデル事業の推進	熊本大学大学院生命科学研究所/産科婦人科学	教授
桑野 博行	がん医療ネットワークナビゲーターの養成プログラムの確立と実践、及び群馬モデル事業の推進	群馬大学大学院医学系研究科/病態総合外科学	教授
調 憲	がん医療ネットワークナビゲーターの養成プログラムの確立と実践、及び福岡モデル事業の推進	九州大学大学院医学系学府/消化器・総合外科学	准教授